

牧之原市茶業振興計画

(平成27年度～令和4年度)



平成27年3月 策定

平成31年3月 改正

目 次

I 基本方針	・ ・ ・ ・ ・	1
1 計画の概要	・ ・ ・ ・ ・	1
2 計画期間	・ ・ ・ ・ ・	1
3 基本的な考え方	・ ・ ・ ・ ・	1
II 現状と課題	・ ・ ・ ・ ・	2
1 茶業の現状	・ ・ ・ ・ ・	2
2 計画の検証	・ ・ ・ ・ ・	2
III 静岡牧之原茶の振興	・ ・ ・ ・ ・	5
1 魅力ある経営体の育成（経営）	・ ・ ・ ・ ・	5
(1) 茶業経営形態の多様化	・ ・ ・ ・ ・	5
(2) 選ばれるお茶の生産	・ ・ ・ ・ ・	6
2 静岡牧之原茶のブランド化と販路の開拓（販売）	・ ・ ・ ・ ・	7
(1) 消費者ニーズに基づく生産と販売	・ ・ ・ ・ ・	7
(2) 販路の開拓	・ ・ ・ ・ ・	8
(3) 消費者を意識した販売戦略	・ ・ ・ ・ ・	8
3 生産性の高い基盤づくり（ハード）	・ ・ ・ ・ ・	10
(1) ほ場条件の改善(集積、基盤整備)	・ ・ ・ ・ ・	10
(2) 効率的な管理		
(ハード整備、管理手法改善による低コスト化)	・ ・ ・ ・ ・	11
4 茶文化の継承と創造（文化）	・ ・ ・ ・ ・	12
(1) 次世代へのお茶の普及	・ ・ ・ ・ ・	12
(2) 伝統技術の継承	・ ・ ・ ・ ・	13
(3) 新たな茶文化の創造	・ ・ ・ ・ ・	14
IV 茶業関係者の役割と静岡牧之原茶の振興	・ ・ ・ ・ ・	15
V 茶業振興計画における目標数値	・ ・ ・ ・ ・	17

- 【資料 1】 緑茶の輸出量及び輸出額
- 【資料 2】 緑茶（リーフ茶）の 1 世帯・1 人当たり購入量・金額
- 【資料 3】 静岡県における茶期別生葉価格の推移
- 【資料 4】 静岡県における茶期別荒茶価格の推移
- 【資料 5】 牧之原市農業従事者等の平均年齢
- 【資料 6】 茶工場数の推移
- 【資料 7】 牧之原市食育推進計画アンケート調査
- 【資料 8】 各団体の意見
- 【資料 9】 荒茶工場アンケート

I 基本方針

1 計画の概要

牧之原市の基幹産業である茶業について、静岡県内有数の産地としての誇りを持ち、静岡牧之原茶のブランド力の向上と経営基盤の強化により、産地力の向上を図ります。

平成27年に策定された前期計画で設定された4つの柱による施策を基本に、計画をブラッシュアップし、儲かる農業をキーワードに事業推進していきます。

2 計画期間

前計画の期間は、平成27年度から平成34年度(令和4年度)までの8年間で設定しており、中間年(平成30年度)に見直しを行う事としていました。

本年度見直しを行い、後期計画として平成31年度(令和元年度)から令和4年度までの4年間で計画期間としました。

3 基本的な考え方

前期計画を基本とし、静岡牧之原茶の茶産地としての魅力を発信するとともに、販売力のさらなる向上を目指し、生産者・茶商・JA・茶業振興協議会・行政など、茶業関係者や市内の各種団体を含め、地域が一体となって取り組みます。

Ⅱ 現状と課題

1 茶業の現状

日本人の生活に根付いたお茶を飲む習慣が変化しています。食生活の多様化に伴い、市場にはお茶以外にも様々な飲料が溢れており、それらを求める消費者が増加しています。茶業を取り巻く情勢は、消費者の嗜好の変化によりリーフ茶の消費が減少し茶価の低迷が長期化しています。生産農家の高齢化や後継者不足により労働力不足が深刻化しており、荒廃農地が増加するなど大変厳しい状況となっています。

一方で、近年、急須ではなくガラスの茶器で淹れる冷茶やペットボトル、ティーパックなど簡便性に優れた商品が人気となっています。ほかにも、抹茶やほうじ茶を使ったスイーツやシングルオリジンのお茶といった従来とは異なるお茶が注目されるなど、消費者ニーズの多様化などに伴い、新しいスタイルでのお茶の楽しみ方が増えています。

また、海外において緑茶需要が伸びており、日本からの緑茶輸出もこの十年間で3倍100億円を超えています。海外では有機栽培の抹茶が需要の中心となっています。



2 計画の検証

平成27年度から平成34年度(令和4年度)までの計画の中間年(平成30年度)に、計画初年度以降の評価・検証する。

平成27年度から始まる茶業振興計画では、「魅力ある経営体の育成」、「静岡牧之原茶のブランド化と販路の開拓」、「生産性の高い基盤づくり」、「お茶文化の継承と創造」を4本の柱として茶業振興を進めてきました。

(1) 魅力ある経営体の育成

市内の茶生産者の高齢化が進行しており、荒茶製造を行う担い手を中心とした共同での茶園管理を実施する生産者が増加しています。また、世界的に需要

が拡大している緑茶の輸出に向けた取組を行う茶業関係者、「茶＋α」の複合経営に取組む生産者も増加しています。

今後はさらに労働力不足を補うための共同管理体制の構築や収益を確保し茶業経営の安定を図るための輸出、複合経営、6次産業化などの取組が今以上に求められる状況となっています。

(2) 静岡牧之原茶のブランド化と販路の開拓

生活スタイルや食生活の変化により、自宅で茶を飲む習慣や機会が少なくなっています。市場にはお茶以外にも様々な飲料が溢れており、若い世代を中心にそれらを求める消費者が増加しています。

消費者から選ばれるお茶を目指すため一層のブランド化の推進、消費者や販路に応じて様々な魅力を発信するセールスとともに、従来からの販売先とは異なる新たな販路を開拓できる自販力の向上を図る取組が必要となっています。

(3) 生産性の高い基盤づくり

長引く茶価の低迷や他産地との競合により、市内の茶業経営は苦境に立たされています。このような状況下で茶産地として維持発展させていくためには、生産性の高い基盤づくりによる管理の効率化、コストの削減が必須となっています。

永年性作物である茶は、未収期間が課題となり、大規模な基盤整備や改植等が進んでいないのが現状です。生産農家の高齢化や後継者不足により、労働力不足も深刻化しており、基盤整備とともに管理手法を見直し効率的な茶園管理を推進していく事が求められています。

(4) お茶文化の継承と創造

消費者の嗜好の変化によりお茶の消費が減少しており、同時に古くからの茶文化も廃れていっています。将来にわたりお茶文化を伝え楽しんでいくためには、お茶になじみの薄い若い世代を中心にお茶の楽しみ方を伝えていくとともに、新たな楽しみ方を提案していく必要があります。

また、茶手揉み技術や世界農業遺産「静岡の茶草場農法」などの歴史ある茶栽培、製造技術を次世代に伝え、茶文化として継承していく必要があります。

伝統を大切に守りつつ、茶の新たな魅力の創造が急務となっています。

茶業を取り巻く環境は日々厳しさが増している中で、生産基盤や生産者の経営形態（内的要因）や社会情勢、消費者ニーズ（外的要因）において、自らが持つ強みや弱みを把握し、改善に向けた行動力が必要です。

自らが行動を起こすことで見えてくる課題を、茶業関係者の連携により解決しながら、市内茶業の活性化を図っていきます。

現状と課題のキーワード

	外的要因	内的要因
強み	・ 輸出の増加【資料 1】 ・ 健康志向の高まり ・ 和食が世界無形文化遺産に登録 ・ モノからコトへのシフト ・ インバウンドの増加 ・ 東京オリンピック開催決定 ・ 「静岡の茶草場農法」が世界農業遺産に認定 ・ 世界農業遺産「静岡水わさびの伝統栽培」との連携 ・ 農地中間管理機構関連事業など補助制度の拡充	・ 静岡牧之原茶「望」のブランド化 ・ 全国品評会での「産地賞」の受賞 ・ 多彩なお茶のバリエーション ・ 機能性表示や高級路線 ・ 若い世代への食育の取組 ・ 児童生徒がお茶に触れ学ぶ取組 ・ 農地流動化が容易 ・ 生産者による基盤整備の取組増加 ・ 契約栽培など経営形態の多様化 ・ 茶業関係者による複合経営の取組 ・ 農閑期の活用が可能 ・ お茶産地としての歴史
弱み	・ 緑茶需要の減少【資料 2】 (贈答需要、仏事需要の減少) ・ 生活スタイルの変化による緑茶消費、リーフ茶消費の減少 (お茶を飲む家庭の減少) ・ 茶価の低迷【資料 3、4】 (高価格帯需要の減少) ・ 低価格帯へのシフト ・ 購入先の変化 ・ 茶業界の商習慣 ・ 問屋、茶商の仕入方法の変化 在庫量の変化(減少) 必要量を選別買い ・ 安全安心意識の高まり ・ 輸出先毎の残留農薬基準の違い ・ 高温少雨など気象状況の変化 ・ 特徴あるお茶が少ない ・ 静岡牧之原茶の認知度が低い ・ 首都圏の販路が弱い ・ 東京電力放射能風評被害の発生	・ 高齢化【資料 5】 ・ 後継者不足 ・ 耕作放棄地の増加 ・ 傾斜地農地の荒廃 ・ 茶工場数の減少【資料 6】 ・ 市内茶園面積の減少 ・ 生葉生産量の減少 ・ 生産コストの増加 ・ 農道等の農業インフラが脆弱 ・ 基盤整備の遅れによる中心的農家の規模拡大の限界 ・ 製茶機械の老朽化 ・ 防霜ファンの老朽化 ・ 茶園の老園化 ・ やぶきた偏重 ・ 自園のお茶のPR力が弱い ・ 関係機関の連携が希薄 ・ 有機栽培の取組が少ない ・ 抹茶生産施設がない ・ 管理方法等によるトラブル増加

Ⅲ 静岡牧之原茶の振興

Ⅲ-1 魅力ある経営体の育成(経営)

近年、ネット通販など消費者への販売手法が多様化していますが、市内の茶の流通形態として、生産者は生産した荒茶を茶商に販売するものが多いのが現状です。

しかし、国内での緑茶消費が減少している状況下では、生産者が出来上がったお茶を茶商に販売する従来手法（プロダクトアウト）では販売に苦戦しています。茶商が求める消費者ニーズに添った茶の製造を行うことが重要となります。製造前に茶商と協議し荒茶製造を行うマーケットインの手法による生産への移行を推進します。

また、規模拡大、契約栽培、複合経営や6次産業化など、様々な経営形態により安定的かつ継続的に農業ができる環境整備を進めていきます。

(1) 茶業経営形態の多様化

茶況の低迷が長期化し、茶業経営環境は厳しさを増しています。茶業経営の規模拡大による低コスト化など生産性の向上に取り組む生産者、経営の安定を図るため「茶＋α」の複合経営や6次産業化に取り組む生産者が増加しています。茶業経営を営む者が、様々な経営形態により安定的かつ継続的に農業ができる環境整備を進めていきます。

また、農業従事者の高齢化や後継者不足を解消するため、担い手を中心とした地域のリーダーとなる生産者の育成や共同管理、作業受委託、生産組織の法人化など、従来とは異なる経営形態により効率的な茶業経営を行う生産者を支援していきます。

(主な取組み)

- ・ 中間管理機構を活用した貸借や基盤整備などによる農地集積を支援します。
- ・ 契約栽培の導入による安定的な茶業経営に取り組む生産者を、JAなどと連携し支援します。
- ・ 複合経営に取り組む生産者を対象に勉強会を開催し、転作に必要な知識や技術、販路等の情報提供を行います。
- ・ 6次産業化に取り組む生産者を、県や関係課と連携し支援します。
- ・ 地域リーダーとなる担い手及び若手農業者の育成を支援します。
- ・ 共同管理や作業受委託など従来と異なる仕組みづくりを支援します。
- ・ 法人化を目指す生産組織の育成を茶業関係者と連携し支援します。

（2）選ばれるお茶の生産

生活スタイルの変化により、消費者の嗜好も変化してきており、従来とは異なり、消費者ニーズを重視した茶が求められています。市内では、香り緑茶や和紅茶、ボトリングティなど深蒸し茶以外の製造が増加してきています。茶業関係者と連携し、消費者ニーズなどの情報提供や技術支援を行い、消費者に選ばれるお茶づくりを推進していきます。

また、緑茶の輸出が拡大しており、市内でも輸出を目指す茶業関係者が増えています。JA と連携した輸出対応の防除体系の構築や有機農法の導入など、輸出に向けた取組や、安心安全なお茶の生産を担保する GAP 等の公的認証取得を目指す茶業関係者を支援していきます。

（主な取組み）

- ・GAP 等の公的認証取得に取組む生産者等を支援し、安心安全なお茶の生産を推進します。
- ・生産技術の向上や消費者ニーズ把握のため、生産者が情報共有する場の提供を行います。
- ・他地域に比べ遅れている有機農法の普及に向け、有機農法に取組む生産者を支援します。
- ・輸出対応の防除体系を実践する生産者を支援するとともに、輸出対応圃場のエリア化に向け、JA などと連携し調整を行います。



Ⅲ-2 静岡牧之原茶のブランド化と販路の開拓(販売)

高齢化と人口減少、嗜好の多様化や食生活の変化により、国内での緑茶消費は明らかに減少しています。従来と同様の生産及び販売では、この状況を変える事ができなくなっています。

お茶への親しみが薄い若い世代などをターゲットにしたアプローチや従来とは異なる消費ゾーンや販路の開拓などが必要となっています。

また、大都市圏における展示会への出展や全国規模のコンクールなどへの出品支援等により、消費地で選ばれるお茶となるよう、静岡牧之原茶のブランド化を推進していきます。

(1) 消費者ニーズに基づく生産と販売

消費者ニーズが多様化しており、従来とは異なる様々なお茶が求められています。消費者の求めるお茶の生産やニーズに添った商品開発を支援していくとともに、茶の消費動向などの情報交換、提供を行う場の提供など、茶業関係者の連携を強化していきます。

また、国内での緑茶消費は減少していますが、高級茶の需要は存在します。

高級茶需要を取り込めるよう、高品質な静岡牧之原茶のイメージを創出するためのブランド化に取り組んでいきます。

静岡牧之原茶「望」は、生産指針や独自の品質管理により有利販売を行っています。今後は、生産面積の拡大や更なる品質の向上により、認知度の向上に取り組めます。



首都圏展示会での出展



茶商組合主催の入札会

(主な取組み)

- ・消費者ニーズを把握するため、展示会等に出展する茶業関係者を支援します。
- ・生産者と茶商が連携を図るため、茶業関係者自らが行う取組を支援します。
- ・消費者ニーズに添った商品開発に取り組む茶業関係者を支援します。
- ・新たな商品製造に必要な製茶機械を導入する生産者の取組を支援します。

- ・販路拡大のため開催する入礼会などの茶業関係者の取組を支援します。
- ・静岡牧之原茶のイメージ向上を図るため、全国レベルの茶品評会やコンテストに出品する茶業関係者を支援します。
- ・地理的表示(GI表示)の取得を茶業関係者と連携し検討していきます。

(2) 販路の開拓

主要消費地の都市部で知名度の低い「静岡牧之原茶」の消費拡大を図るため、首都圏などでの販売拡大PRを推進します。

また、来日する外国人が増加しており、日本文化に関心が集まっています。富士山静岡空港を利用する来日客が、日本茶に触れ味わう機会を提供するとともに、輸出による海外販路の拡大に取り組んでいきます。輸出先のお茶の消費動向や流通及び輸出条件に関する情報収集と提供など、輸出に取り組む茶業関係者を支援していきます。



FOODEX 出展 外国人来場者



世界お茶まつり出展

(主な取組み)

- ・首都圏における消費拡大イベント等の開催、出展者支援をします。
- ・富士山静岡空港を活用した静岡牧之原茶のPRを、茶業関係者が連携し行っています。
- ・輸出先のお茶の消費動向や流通など情報提供を行っていきます。
- ・輸出に取り組む茶業関係者を対象に輸出セミナーを開催します。
- ・国・県の補助制度を活用し、輸出に取り組む茶業関係者を支援します。

(3) 消費者を意識した販売戦略

高齢化、晩婚化の進行などにより生活スタイルが変化し、お茶の好みが多様化しており、消費者の年齢層や生活スタイルを意識した販売が必要となっています。様々な消費者ニーズを的確に把握し、選ばれるお茶を生産販売していく

茶業関係者を支援していきます。

グリーンツーリズムや茶園での茶会など茶業関係者が行う消費地との交流を支援し、茶草場農法などストーリー性のある茶栽培や生産者の顔が見える販売など、自販力の向上に取り組んでいきます。

緑茶の健康効果やキャラクターの活用など、様々な年代にアピールできる販売方法により静岡牧之原茶のPRを行い、消費拡大に取り組みます。



高速道路サービスエリアでの生産者販売



保育園児の茶摘み体験

（主な取り組み）

- ・消費者ニーズが高まるティーパックなど、簡便性に優れた商品開発を推進します。
- ・茶園景観を楽しむなど茶園を活用したイベントなど、茶業関係者自らが行う消費地との交流を支援します。
- ・生産した茶を自ら消費者に販売するため、集客施設やイベントでの販売機会の提供など、自販力向上の取組を支援します。
- ・緑茶の健康効果PRなど、消費者の年齢層を意識した販売方法を提案します。
- ・健康効果を表示する機能性表示食品などに取組む茶業関係者を支援します。

Ⅲ-3 生産性の高い基盤づくり(ハード)

牧之原市は、茶産地として広大な茶園を有していますが、個々の圃場は不整形で小面積な茶園が多いため、効率的に管理できる圃場環境の整備が遅れていました。

近年、茶園の管理作業全般において乗用型機械の導入が進んでいますが、未だ耕作環境の改善が必要な圃場が多く、低コスト化には農地の集積や基盤整備による規模拡大が必要となります。補助制度の拡充などにより、基盤整備の推進機運が生産者の中で高まっており、地域での話し合いが行われ事業実施に向け取組みが進んできています。基盤整備に併せて乗用型機械による共同管理などを推進し、管理の効率化や労働力不足の解消にも取り組んでいきます。

(1) ほ場条件の改善(集積、基盤整備)

効率的な管理を行うために、農地の集積や基盤整備に取り組んでいます。

現状では、担い手が離農する農家の圃場を借受け規模拡大に取り組んでいます。人農地プランに基づく地域での話し合いを基本とした農地の集積や基盤整備を支援します。茶園管理の更なる効率化を実現できる規模拡大に取り組んでいます。

また、生産者の高齢化や後継者不足などにより労働力が減少しており、傾斜地など生産性の低い圃場を中心に荒廃農地が増加しており、農地集積等の障害となっているため、荒廃農地の解消に取り組む生産者を支援していきます。

市内の茶園では優良品種である「やぶきた」の栽培が多くを占めていますが、植栽後年数が経過し老園化が進み、収量や品質が低下してきています。改植などによる品質の向上や消費者ニーズの高い品種の改植による選ばれる茶の製造を支援していきます。



基盤整備された茶園

(主な取組み)

・生産者自ら取組む基盤整備を推進し、事業化に向けた取組を JA や行政が連携し支援します。

- ・人・農地プランに基づく農地利用の地域の取組を支援します。
- ・農地中間管理機構を活用した貸借による農地集積を支援します。
- ・補助事業を活用した農地集積を推進するため情報提供を行います。
- ・荒廃農地の解消に取り組む生産者を支援します。
- ・補助事業を活用した改植支援を JA や行政が連携し支援します。
- ・新品種や消費者ニーズの高い品種等の情報を収集し、生産者に提供します。

(2) 効率的な管理(ハード整備、管理手法改善による低コスト化)

生産者の高齢化や後継者不足などにより労働力が減少しており、生産の効率化により規模拡大を図るために茶園管理の機械化を推進します。労働力不足を補うため共同摘採、共同管理を推進するとともに、機械の稼働率を向上させ低コストでの管理耕作を実現するため、乗用型茶園管理機の導入や IOT やドローンなどを活用したスマート農業に取り組む生産者を支援します。

老朽化が進んでいる荒茶加工施設の更新や「かおり緑茶」など消費者ニーズに基づく新たな茶の生産設備、気象災害予防のための防霜ファンなどの整備に取り組む生産者を国県の補助制度を活用し支援します。



乗用型機械による防除作業



茶農協での共同摘採

(主な取組み)

- ・各種補助制度を活用した機械導入を支援し、生産の効率化を推進します。
- ・機械の稼働率向上によりコスト削減する共同摘採、共同管理などの仕組みづくりを支援します。
- ・IOT やドローンなどを活用した新たな管理方法や体制を検討し、民間企業と連携して取組者を支援します。
- ・国、県の補助制度を活用した防霜施設や荒茶工場の施設整備を支援します。

Ⅲ-4 茶文化の継承と創造(文化)

歴史ある牧之原市の茶業において、過去から行われている生産加工技術等を無くさず次世代に継承していくための取組が続いています。

未来を担う子どもや若い世代へ茶文化や茶を楽しむ習慣を伝えていくため、食育や茶に触れお茶を知る機会の提供を継続していきます。

また、近年お茶の楽しみ方が多様化しており、従来からの楽しみ方にプラスして新たな茶器の利用など時代に合った楽しみ方などを提案していきます。

(1) 次世代へのお茶の普及

さまざまな機会を通じて、児童や若い世代へお茶の淹れ方や楽しみ方を PR し、茶文化やお茶の良さを知ってもらい、将来につながる若い世代の茶のファンを増やしていきます。

様々な茶業関係者が、児童生徒を対象にお茶の淹れ方教室を開催し、お茶への関心を高めます。ティーヒーロー選手権に市内小学校全生徒が参加する事で、お茶について学ぶ機会を提供します。

お茶になじみの薄い若い世代へ食育を通じての茶の健康効能を広く PR し、親子でお茶を楽しむ習慣を広めていきます。

また、今後増加が見込まれる外国人に日本茶の文化や楽しみ方を知ってもらい、広く日本茶をPRしていきます。



TEA-HERO 選手権、新米ママのお茶教室、保育園での新茶の会

(主な取組み)

- ・食育を通じて親子でお茶を楽しめるよう、若い世代への茶の普及を推進します。
- ・新茶の会の開催など、幼児期からお茶に触れ、お茶を知る機会を提供します。
- ・静岡牧之原茶を知ってもらうために、市内小学生を対象にティーヒーロー選手権を開催します。
- ・イベントなど様々な機会に茶の健康効能を広く PR し、お茶の消費拡大を図ります。
- ・市内在住や市内勤務の外国人に日本茶を知る機会を提供します。

(2) 伝統技術の継承

自然と共生している農業である「静岡の茶草場農法」や茶手揉みなどの優れた伝統技術、農法を継承していくよう、情報を発信しこれらに触れあえる機会を創出し、理解を深めるとともに活動の支援を行います。



手揉み体験



茶草場農法 PR

(主な取組み)

- ・手揉み技術を伝承していくために、伝承機会の創出などにより活動を支援します。
- ・静岡牧之原茶の伝統と手揉技術を継承していくため、献上茶謹製事業に取組めます。
- ・「静岡の茶草場農法」の PR 活動を行い、実践者を支援します。
- ・世界農業遺産に認定された「静岡水わさびの伝統栽培」と連携し、「静岡の茶草場農法」の認知度向上を図ります。

(3) 新たな茶文化の創造

生活スタイルが変化しており、従来からの急須を使ったお茶の楽しみ以外に様々な楽しみ方が提案されています。若い世代にも親しまれるよう冷茶や新しい茶器を使った楽しみ方の情報を発信して行きます。また、お茶を単体で楽しむだけでなく、他の物と組み合わせて楽しんだり、茶葉を食材として利用するなど新たなお茶文化を創造していきます。



保育園での新茶の会、高校生によるお茶席体験、中学生のお茶教室(東京都文京区)

(主な取組み)

- ・成人式や婚姻届時などの機会に茶器等を贈呈し、新たな生活を始める方々にお茶を飲むきっかけづくりをします。
- ・お茶の新たな楽しみ方の提案やお茶文化の PR により、お茶の消費拡大を図ります。
- ・イベント等を通じて、若い世代にお茶の魅力を発信していきます。
- ・生徒や学生が考えるお茶を使った独創的な取組みに協力し、イベントへの参加などを通じて実現できるよう支援します。

Ⅳ 茶業関係者の役割と静岡牧之原茶の振興

静岡牧之原茶の振興を図って行くため、それぞれが個々の役割を果たすとともに、茶業関係者が一体となって栽培、製造、販売などを連携し、取り組んでいきます。

生産者 茶工場	①安全・安心のお茶づくり ②環境に配慮したお茶づくり ③消費者ニーズに基づく品種茶導入による特色あるお茶づくり ④組織や地域の牽引者、担い手の確保と育成 ⑤基盤整備等の圃場環境整備の取組 ⑥茶工場の経営計画・経営ビジョンの作成と実行 - 生産性の向上策（コスト削減・規模拡大） - 消費者ニーズに基づく付加価値の高い荒茶生産 - 茶園管理・製茶機械の効率的な活用、共同管理の検討 ⑦組織経営体等への移行と経営改革 ⑧各種品評会優良成績への取り組み ⑨荒廃農地解消と自然環境保全の取組 ⑩複合経営、6次産業化（自販等）の取り組みと拡大 ⑪世界農業遺産「静岡の茶草場農法」の実践と継承 ⑫茶商との連携強化
茶商	①新たな商品の開発と販売 ②海外を含む販路の開拓 ③生産者との連携強化 ④消費者ニーズ等の生産者への情報提供、共有 ⑤消費拡大、PR事業の推進、イベント等への協力 ⑥消費者や消費地との交流の取組 ⑦静岡牧之原茶取り扱い拡大
J Aハイナ ン	①茶園管理や茶工場運営の指導及び育成 ②共同管理、複合経営の実践支援 ③G A P等の公的認証取得の推進及び支援 ④農用地の利用集積推進、基盤整備への支援 ⑤各種品評会への出品指導 ⑥静岡牧之原茶のブランド化の推進 ⑦ティーヒーロー選手権の開催、運営 ⑧販売宣伝事業の強化、消費地の開拓（海外を含む） ⑨新たな茶飲用スタイル研究と商品企画 ⑩契約栽培の導入推進及びエリア化

	⑪輸出対応圃場のエリア化、防除体系など情報提供 ⑫新品種などの情報提供及び改植支援
牧之原市茶業振興協議会	①静岡牧之原茶のブランド化の推進 ②市内外における消費宣伝活動 ③消費宣伝イベントの企画と実施 ④生産者・茶商等のPR事業の支援 ⑤規格茶袋、消費拡大グッズの企画販売 ⑥イベント資機材等の貸出し ⑦お茶の淹れ方教室などお茶に親しむ機会の提供 ⑧海外輸出に関する情報提供 ⑨世界農業遺産「静岡の茶草場農法」のPRと支援 ⑩農商工観の連携による情報発信とPR ⑪シンポジウム等学習の場の提供
牧之原市	①補助制度の情報提供と取組支援 ②茶業振興団体・組織、農業経営士等の活動支援 ③農商工観連携事業の推進 ④県・関係市町との連携強化 ⑤ビジネス経営体の育成支援 ⑥人・農地プラン等による農地集積の支援

V 茶業振興計画における目標数値

1 経営

・農業生産法人数

<u>現状</u>	平成 30 年度	18 件	(茶関係)
<u>目標</u>	令和 4 年度	25 件	

・茶園の共同管理を行う経営体数

<u>現状</u>	平成 30 年度	39 経営体
<u>目標</u>	令和 4 年度	50 経営体

・契約栽培面積

<u>現状</u>	平成 30 年度	98ha
<u>目標</u>	令和 4 年度	230ha

・公的認証取得経営体数（GAP 取得経営体）

<u>現状</u>	平成 30 年度	30 件	(茶関係)
<u>目標</u>	令和 4 年度	40 件	

2 販売

・静岡牧之原茶「望」栽培面積

<u>現状</u>	平成 30 年度	一茶 46.12ha、二茶 76.25ha	合格率 80%超
<u>目標</u>	令和 4 年度	一茶 45ha、二茶 95ha	合格率 80%超

・茶草場農法の認定実践者

<u>現状</u>	平成 30 年度	13 件
<u>目標</u>	令和 4 年度	20 件

3 ハード

・基盤整備面積

<u>現状</u>	平成 30 年度	158.58ha
<u>目標</u>		200ha

・農地中間管理機構、農地利用集積円滑化事業等による担い手への農地集積促進

<u>現状</u>	平成 30 年度	28.5ha/年
<u>目標</u>		35.0ha/年

・耕作放棄地の面積

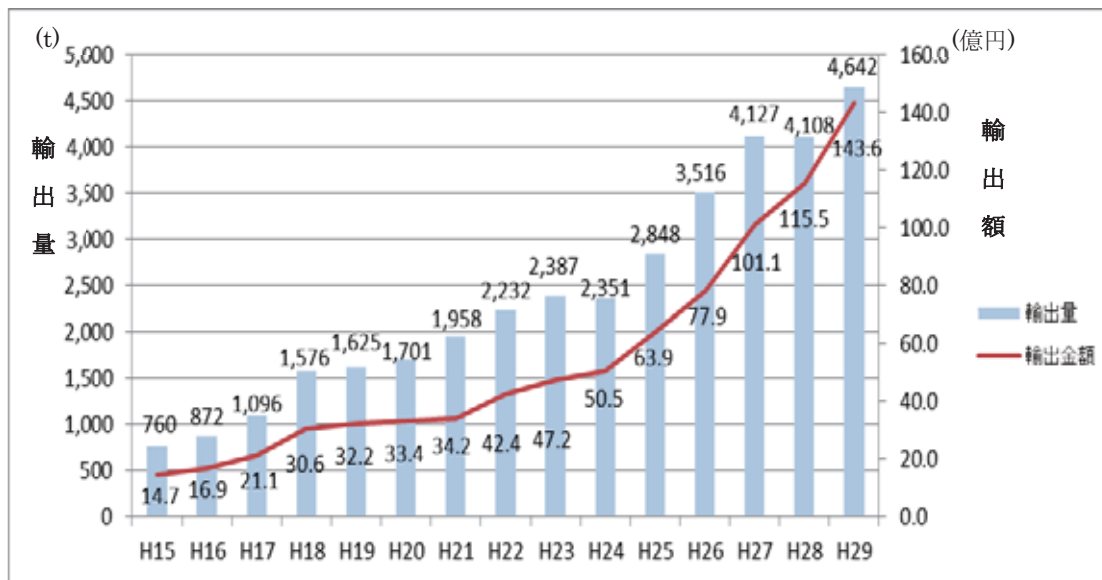
<u>現状</u>	平成 30 年度	55.0ha
<u>目標</u>		56.0ha 以下

4 文化

・お茶の淹れ方教室の開催回数

<u>現状</u>	平成 30 年度	31 回/年
<u>目標</u>		40 回/年

【資料 1】 緑茶の輸出量及び輸出額



(資料:財務省貿易統計(輸出))

【資料 2】 緑茶(リーフ茶)の1世帯・1人当たり購入量・金額

	1世帯当たり			100g当りの 購入単価(円)	1人当たりの 購入量(g)
	人数(人)	購入量(g)	支出金額(円)		
昭和40年	4.26	2,133	1,585	74	501
昭和50年	3.89	1,918	5,196	271	493
昭和60年	3.71	1,406	6,550	466	379
平成2年	3.56	1,683	6,215	502	347
平成7年	3.42	1,237	6,699	543	361
平成12年	3.24	1,234	6,810	567	370
平成17年	3.15	1,133	5,646	498	360
平成22年	3.08	956	4,466	467	310
平成25年	3.05	877	4,309	491	288
平成26年	3.03	889	4,168	469	293
平成27年	3.01	844	4,096	486	280
平成28年	2.99	856	4,196	490	286
平成29年	2.97	855	4,113	481	288

(資料:総務省家計調査)

【資料 3】 静岡県における茶期別生葉価格の推移

	1 番茶	2 番茶	3 番茶	4・秋冬番茶	平均	
					価格(円)	前年比(%)
平成 12 年	487	131	76	40	295	85
平成 17 年	434	105	64	40	249	92.5
平成 22 年	384	68	31	29	203	97.5
平成 25 年	355	70	32	32	167	91.3
平成 26 年	311	59	31	29	154	92.2
平成 27 年	274	54	30	27	137	89.0
平成 28 年	278	61	34	31	141	102.9
平成 29 年	302	71	48	39	149	105.7

(資料:静岡県経済連)

【資料 4】 静岡県における茶期別荒茶価格の推移

	1 番茶	2 番茶	3 番茶	4・秋冬番茶	平均	
					価格(円)	前年比(%)
平成 12 年	3,137	1,244	774	353	2,024	87.2
平成 17 年	2,798	1,116	637	327	1,650	—
平成 22 年	2,684	730	331	300	1,438	104.1
平成 25 年	2,567	783	324	335	1,294	97.5
平成 26 年	2,312	678	316	306	1,202	92.8
平成 27 年	2,075	627	310	291	1,091	90.7
平成 28 年	2,113	716	340	329	1,123	100.9
平成 29 年	2,328	823	486	359	1,192	106.1

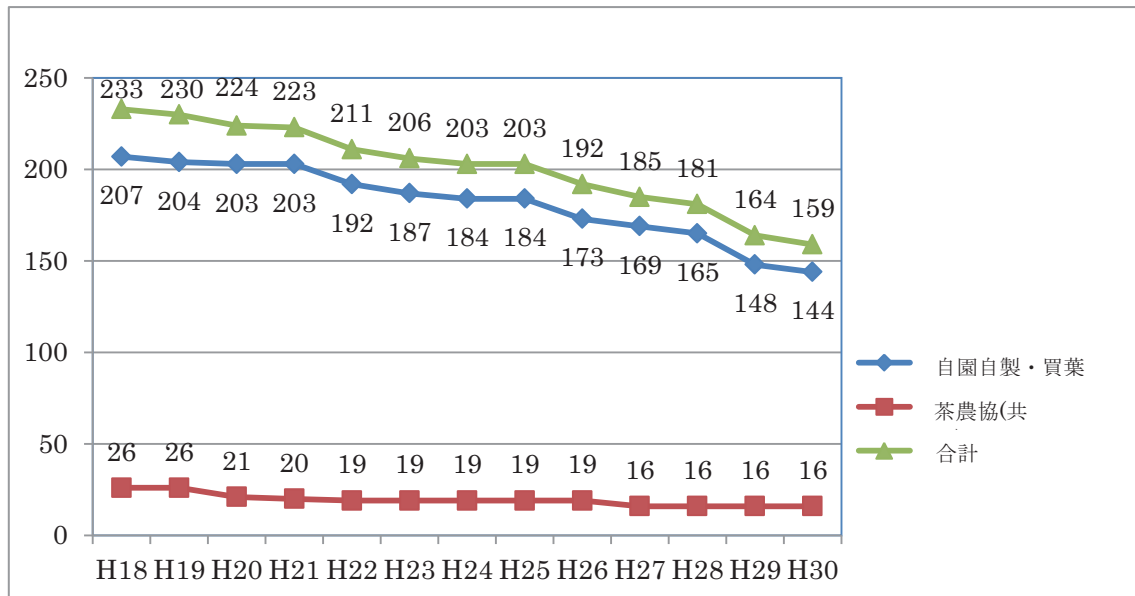
※年平均(H12～22)は、経済連の茶期別荒茶価格及び静岡県農政事務所の茶期別荒茶生産量を使用して茶業農産課で算出。年平均価格(H25～29)は経済連。
(資料:静岡県経済連)

【資料 5】 牧之原市農業従事者等の平均年齢

農業従事者			農業就業人口			基幹的農業従事者		
男女計の 平均年齢	男の平均 年齢	女の平均 年齢	男女計の 平均年齢	男の平均 年齢	女の平均 年齢	男女計の 平均年齢	男の平均 年齢	女の平均 年齢
60.5	59.1	62.0	64.8	63.8	65.9	65.4	64.3	66.8

(資料:2015 年農林業センサス)

【資料 6】 茶工場数の推移



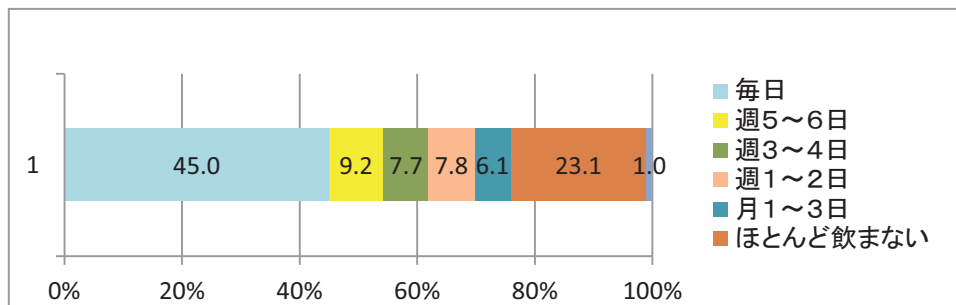
(資料:お茶振興室調べ)

【資料 7】 牧之原市食育推進計画アンケート調査

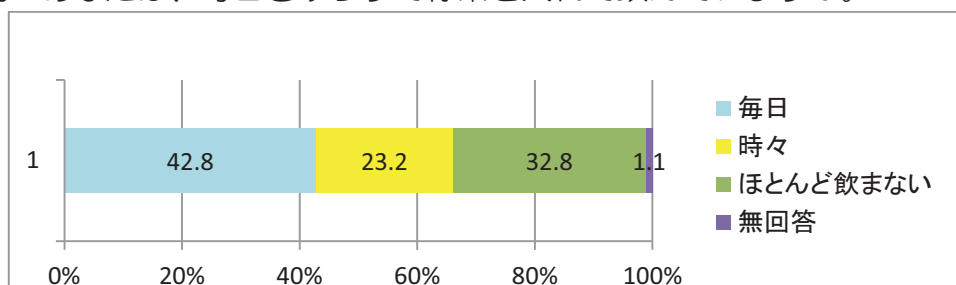
(資料:健康推進課)

成人への質問

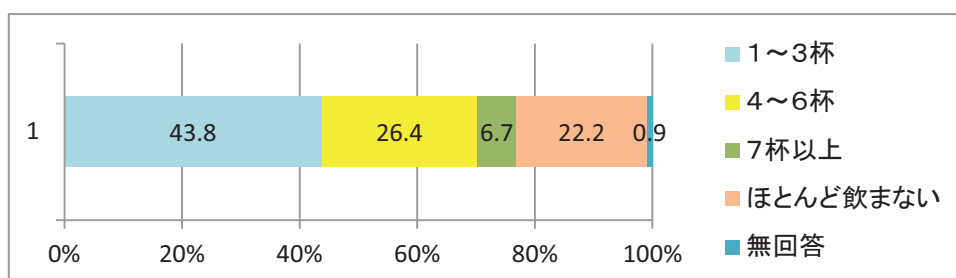
問 あなたは、茶葉で淹れた緑茶をこの1カ月間にどのくらい飲みましたか。



問 あなたは、毎日きゅうすで緑茶を入れて飲んでいますか。

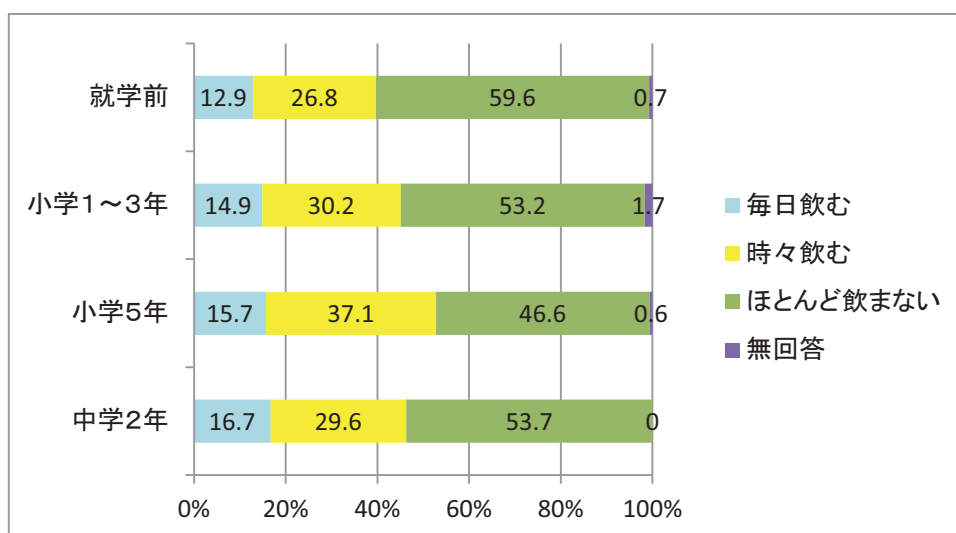


問 あなたは、緑茶(ペットボトル等含む)を1日に湯呑みで何杯くらい飲みますか。(ペットボトル1本 500ml＝湯呑み約3杯)

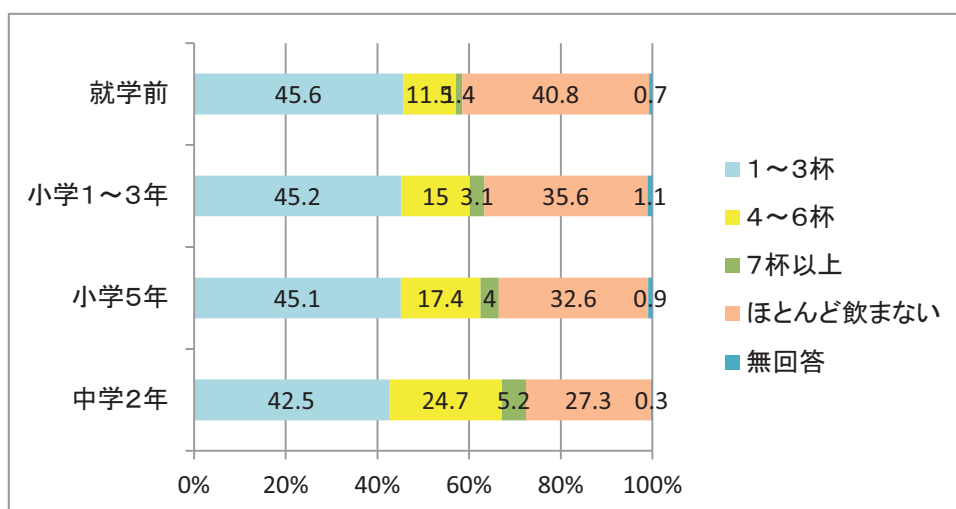


子ども(就学前～小中学生)への質問

問 あなたは、毎日きゅうすで緑茶を入れて飲んでいますか。



問 あなたは、緑茶(ペットボトル等含む)を1日に湯呑みで何杯くらい飲みますか。(ペットボトル1本 500ml＝湯呑み約3杯)



1 牧之原市の茶業振興に必要だと感じていることをお聞かせください。

意 見	区分
牧之原茶としてのブランド確立の推進	自園自製
牧之原茶のPR	法人
マスメディアを利用したPRをもっと行う。	自園自製
牧之原茶を若者に飲んでもらえるようにPRしてほしい。	自園自製
東京オリンピックを有効活用(お茶のPR活動)	自園自製
牧之原市の戦略品種を作り、牧之原茶をPR(つゆひかり、さえみどり、キラリ31)	法人
茶園整備の推進	法人
基盤整備と人材確保	法人
生産性の向上、単位時間あたりの作業効率の上昇。その為には茶園集積、通路の整備が必要	共同
茶園集積	法人
基盤整備の大規模なものをを行い効率的に生産できる環境をととのえる事	自園自製
小規模の(1ha)の基盤整備も対応してもらいたい。少人数グループで対応してもらった方がすべてが早い。(反対が少ない)	自園自製
市主導の茶園整備計画	自園自製
産業として残していくためには、茶園の集積、基盤整備、工場の統廃合、補助金支援	自園自製
新規補助事業の内容や市の茶業振興策を市内生産者に広く知らせる方法を考える。	法人
肥料、農薬、重油、電気などの補助制度の拡充	自園自製
早場所の有利さを生かし、且つ高収入になる品種を導入して農家の利を得る。改植の負担があるため、市単独補助をつける。	法人
使いやすい補助金、補助金などの情報	自園自製
お茶を生産するための助成をしてもらいたい。(経費がかかりすぎるため利益が上がらない。)	自園自製
色々な補助事業があるが、情報に近い役員は有効に利用しているように見えるが、下々の農業者には蚊帳の外という感じである。	協同
ペットボトル向けの茶生産者と、リーフ茶向け生産者のエリア分け	自園自製
リーフ需要の低迷により茶価の安値が増々大きくなっています。一方ドリンク原料・ティーバッグの需要は年々増加し、低価格傾向になっています。このような状況は、今後も続き現状の茶業経営を進めるには困難な状況です。経営を安定させるための施策・農業者としての取組を考えていただきたい。	法人
人手の確保	自園自製
少数でも成り立つ仕組みづくり	自園自製
担い手(後継者)の確保・育成	法人
放棄茶園の対策(転用等)	法人
耕作放棄園が増えてきて迷惑しているが、一方で、もっと生産量が減らないと需要のバランスが取れないと思う。そういった意味で放棄園の改植に補助金を出すのは正しいのかと思ったりもする。	その他
耕作放棄地をどうにかするのではなく、現状耕作している畑を放棄地にしないために何かするべき。兼業や高齢化で畑の管理がもたもたできないのであればやめた方がよい。品質の悪いお茶は、牧之原茶の価値を下げる。リーフ茶は、供給がまだ多い、供給を減らした方がいいのでは？茶商があせるくらい供給が減らないと、茶価の価格は上がらないと思う。	自園自製
プルートMCの防除のように、時間に余裕のある防除を、行政またはJAまたは個人または企業が受託して行うような組織があれば良いのと思う。	その他
安心安全のものを作る為には、無農薬化がかかせないので、未来はオーガニックにいくしかないから。無農薬にする為のすべての事を支援してほしい。	自園自製
茶生産農家の中には将来像が見えなくて不安を持っている人は多くいます。そのなかでも茶業で頑張ろうとしている人はいます。牧之原から茶がなくなることは考えられません。規模には関係なく頑張る人への応援をお願いします。	自園自製
一つ一つの工場が、牧之原市として産地作りを進め必要性が今こそ必要。	その他
県内、国内外にお茶をアピール(試飲)しても、お茶の印象の悪くなるお茶の使用は避けるべき。(シブイ、ニガイ)	自園自製
リーフ用はリーフ用の茶として、上・中・下とランクをはっきりと示し、飲む人に本物を伝えるべき。	自園自製
現在のニーズを調査し、今どの様なお茶が必要か調べ、ニーズにそった茶造りを進める。	自園自製
リーフのお茶を売る買ってもらう為の急須のかわりになる、たとえばリーフのサーバーとかリーフのドリップなど普及するような研究・開発を考えてほしいです。	自園自製
牧之原市の茶業が、他の地域を差し置いて繁栄することは、考えられないので、県や隣接地域と足並みをそろえ同調していくしかないのでは。	協同
研究 挑戦	自園自製
外部の力	共同
まずは道路のアスファルトを乗用のキカイの旋回で破壊しない、側道へ刈り落とした茶葉の流出防止、早朝の騒音防止、農薬のドリフト防止。これらの事が出来てから茶業振興を！茶業振興の妨げになっています。	自園自製
地域で茶業を守る。(自治体も、水路、道路、守り切れていないが、その指導)	自園自製
農業の会合に出席しても最後まで付合う。どこかにやる気のヒントが見つかるかも。(職員の方も)	自園自製
市内小学生にお茶に親しんでもらう施策を考える。(淹れ方、歴史)	法人
今回のようなアンケートを繰り返し、生産者の意見を常に利く体制を考える。	法人
文句を言う。口数をへらさない。	自園自製
認定農業者の荒茶品評会は必要と感じられない。他に同様の品評会が多数あり。その事で市の職員の方の時間を取るより、他の事に貴重な時間を使ってほしい。	協同

2 茶業振興を図るうえで、茶業関係者それぞれが個々の役割を果たすことが必要となります。生産者としての役割について考えをお聞かせください。

意 見	区分
安全でおいしいお茶を提供する事	共同
安全安心なお茶づくりをする事	その他
安心、安全なお茶作りに関しては、工場として完璧に実施できていると思います。	協同
安心安全なお茶作りはもはや当然な事	自園自製
ニーズにあったものを的確に作る	
消費者ニーズにあったお茶を生産する品質向上と茶商と自販の協力体制。	自園自製
品質向上。個々の茶園管理、茶の製造へのスキルアップ。	自園自製
消費者は味の良い物を求めていると思うので、そのためには、生葉の良い物を作ることと思います。特に肥料の良いもの。(海でとれるもの。魚、コンブ等を原料としたもの。)	自園自製
後継者の確保等、将来的に運営できる体制を確立する点が挙げられます。	協同
後継者をつくる。販売の努力をする。売上を上げる。	自園自製
未来に繋げていくうえで茶業が魅力的な仕事と思えるようにしていけるように安定して生産が行える体制をつくりたい。(契約栽培の拡大や機械化等)	自園自製
魅力ある茶業(農業)経営、次代に繋ぐ為、販売の多角化、契約栽培による安定化、農園のブランド化、作物の複合化	自園自製
行政の支援のもと、いろいろな経営改善を図りながら茶業の生産を続けていく事	法人
年々、高齢化や後継者不足によって茶業を廃業する農家が増え、当協同組合でも、減少する組合員、働き手不足が深刻で、手の打ち様がなく、本音では茶業振興を考える余裕はなく、生産者としては、何とか伝統ある茶業を継続していきたいが、いつまで体力が持つのか経営が成り立つのか。	協同
生産性の向上(規模拡大と機械化)	法人
製茶工場(経営体)の大型化(合併等)の支援	法人
少数でも成り立つ生産の仕組みづくり	自園自製
機械の効率的な活用	自園自製
ランニングコストの削減	
コスト削減	自園自製
基盤整備による規模拡大、拡大に伴うコスト低減	法人
茶園整備に力を入れる	法人
茶園集積	自園自製
低価格でも経営を継続するために何が必要か	法人
多収品種の導入(年間2,400kg/10a生葉生産)	法人
戦略品種の意味を理解し、市内農家が戦略品種を増やし収入を得ながら、牧之原市のお茶として世間に訴えていく(ヤブキタの時代は終わっている)	法人
積極的な被覆導入	法人
茶園管理、茶園景観の保全、自然環境の保全	自園自製
農地(茶園)の維持、継承	法人
優良茶園の維持	法人
工場の特色を一つでいいので発信していく。	その他
機械が楽に巡回出来る為の枕地を茶園の両側につけることが茶業生産者の役割です。文字で書くとこれだけです長い時間と費用がかかります。でも完成すれば茶園管理に余裕が出来ます。その余った時間を茶業振興に向けることができます。まずは、枕地4mを!	自園自製
リーフ茶とドリンク茶とのしっかりした生産ができるようにしていく。(茶園等の割振り)	自園自製
リーフなのかドリンクなのかはっきりとした生産方法でないと方向性がきまらない。ドリンク、リーフの住み分けが必要。グレーの生産者が多い。そうしないと振興の方向性が難しい。方向性がはっきりすれば生産者も方法論として対応策はあると思う。	自園自製
ドリンク原料、又はリーフ茶でいくのか。私は茶商、問屋さんとの付き合いの中でどちらでも良いと思います。中途半端はやめて、しっかりした信頼関係をつくる事、それによって畑の肥培管理、製造方法、規模を考えることが大切だと思う。	
職業としての茶業、意識の高揚	自園自製
生産者自ら、牧之原茶を飲みPRLしていく	法人
自分の事をガンバル	自園自製
どの業界でも、1次産業が一番大変だと思います	自園自製
今後廃業が増加すると思うが、放棄茶園の仲介業務をお願いするまでです	自園自製
後継者がいない自分たちは、あと十数年で廃業するだろうし、そうである以上これ以上は無理	その他
小売>問屋>工場>生葉 の順番に利益が必要。おおりをくうのは生産者、生産者は奴隷にかなりえない。	自園自製

3 静岡牧之原茶PRについて、ご意見、アイデアをお聞かせください。

意 見	区分
知名度を上げる牧之原地域の茶商さんのまとまり	自園自製
牧之原茶だけではなく、静岡県全体の事を静岡県としてPRしてほしい(静岡はお茶の生産県です。)	自園自製
宣伝費にお金をかけて、全国ネットテレビ。	自園自製
近隣地域のような全国的なPR。	自園自製
マスコミへの対応	法人
お茶に関係したイベントを沢山して、新聞やテレビで知らせる。	自園自製
姉妹都市、友好都市と連携する。	共同
全国市、町、村、との交流ネットワーク確立	法人
市民から、牧之原茶の良さを理解してもらう場にする	法人
生産者自ら、牧之原茶の良さを再度理解する場にする	法人
牧之原市としてお茶の文化歴史を、市に来るお客様に発信し飲料としての良いものだと思ってもらえる。	その他
まずは、人と会っていっぱい話することだと思います。そうすると農業の事とか茶業の話が相手から出てきます。そこで「牧之原の深蒸し茶のアミノ酸の旨味にかなう物は、ないですね。」この一言で全員買ってくれます。	自園自製
お茶のおいしい入れ方の研究。新しいスタイルの入れ方。ティーサーバー。	自園自製
2年前に、掛川市が健康長寿日本一になったと記憶しています。お茶の消費量が大きく関与しているとの事です。お茶が健康に良いことを何らかの方法で大々的にアピールしていただければと思います。	共同
健康飲料PR	法人
牧之原市民に良質リーフ茶無料配布により、良質茶の味、香りの再認識をしてもらいトップセールスマンの役割をお願いしていく	法人
市役所で牧之原茶を飲む場所を作る。	法人
オープンファクトリー化を進めて人を呼び込んでいるような事例をヒントに考える。 (一部先進的な農家、余力のある農家は準備を進めているようです) 現状のままでは個々の農家がそれぞれ特色を出して頑張るのに期待するしかない。	自園自製
茶はいろんな製造方法があるのに！いまの牧之原茶といわれる物は深蒸しのみ。意味が分からない。(深蒸し茶以外のお茶もあるのに偏ったPR)	自園自製
東京などの都市に、牧之原茶の専門店を作る。ブレンド茶ではなく、個々の茶として売る。	自園自製
海外への販路の開拓(国内の販売も需要もなくきびしい。今後は海外へ向けるしかないと思います)	自園自製
東京オリンピックが終われば、需要も激減すると思う。それまでに、新しい販路を確立しておかないと厳しいと思います。	自園自製
市内茶企業など大手に頼る販促。JAで始めた、契約栽培を利用する。	法人
牧之原茶というよりもお茶を積極的に飲むように習慣付けていくことが大事だと思う。	自園自製
八十八夜だからお茶を買って飲もうとする若者があまりいない気がする。 恵方巻きやバレンタインのように積極的なPRを全国的にしていっていただければと思う。	自園自製
お茶そのものよりも、牧之原市の産業として燕三条のように「牧之原ブランド」を発信した方がよいのではないか。	自園自製
牧之原台地の全国アピール	法人
県外、一般消費者に品評会審査。	自園自製
お茶まつり牧之原茶大イベント。	自園自製
静岡空港で牧之原のお茶をアピール、ブースをつくる。	自園自製
韓国ツアーのキムチの様に茶をツアーにからめる。お茶をお土産に。	自園自製
茶を飲む文化が完全に急須からペットボトルへ変わってしまった今、元には戻らない。 ドリンク原料としてお茶を作っているのが現実、よって単価も安く、収益を考えると、大規模経営という事になるだろうが、肥料、農業等の経費も比例して増えるので、苦勞もうけ感が強い。	共同
他ツールからお茶に促す	共同
異業種との交流、コラボ 挑戦	自園自製

H29茶工場訪問時のアンケート結果

【地区の内訳】アンケート回収状況

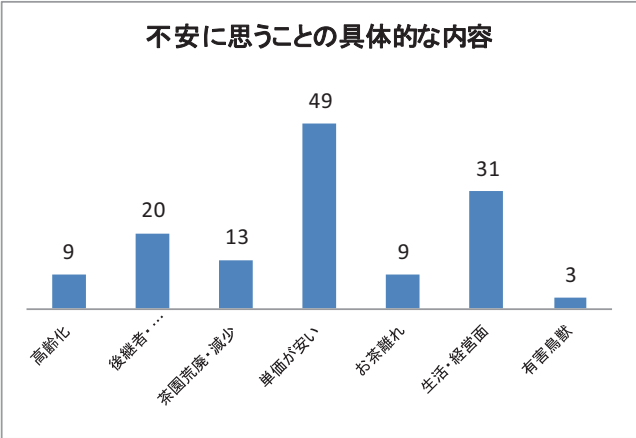
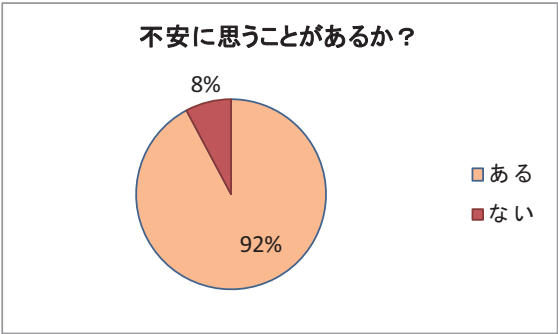
回収数	
相良地区	40
榛原地区	22
牧之原	15
合計	77

配布数	165
回答率	46.67%

《地区別》			
片浜	4	牧之原	15
須々木	11	静波	1
菅山	6	川崎	2
萩間	16	勝間田	18
落居	1	勝俣	1
大江	2		

【Q1】茶業について、不安に思うことがあるか？

ある	71
ない	6



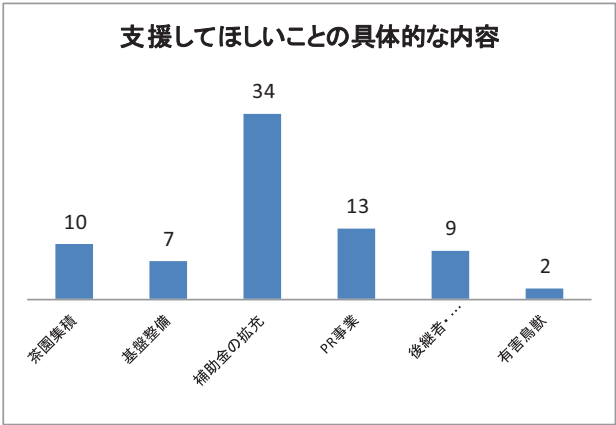
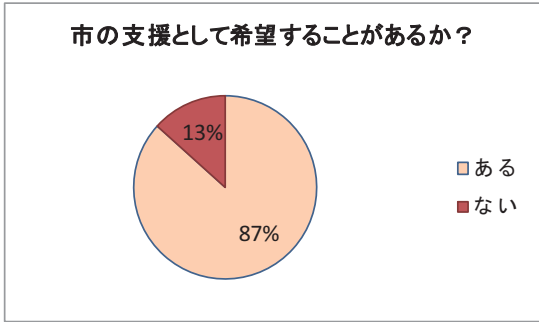
《具体的には…》※件数は内容を見て振り分け(複数にまたがる内容はそれぞれカウント)

高齢化	9	・経営者の高齢化
後継者・人材不足	20	・人材不足 ・茶農家の後継者がいない点 ・後継者がいないため葉売農家になった場合、採算があるか不安
茶園荒廃・減少	13	・畑の維持、生葉の確保 ・畑の数が減って、お茶が集まらない。高齢化。畑が分散しすぎていて、乗用が入れなかったり手間が余計にかかる。 ・高齢化による、傾斜地の耕作放棄地
単価が安い	49	・茶業、茶価の低迷している中、今後の茶業を一本で生計を成り立たせて行けるのか、少し心配です。せっかく後継者があるので、この先を意欲を持って茶業に取り組み行けたらなあと思います。 ・茶業が低価格でしばらく続いている。大手メーカーの動きをみると、この状況からの脱出は大変で固定価格化されそう。 ・年々茶の出荷額が減って来て、生活が苦しくなっている。特に一番茶の価格が安く不安に思う。
お茶離れ	9	・高級茶の消費減退 ・お茶を呑む人が少なくなった。若者に魅力がない。
生活・経営面	31	・今後、茶業で生き残っていくには、低コスト化を目指した経営規模の拡大しかないと考えているが、その為の資金的余裕が、現状ではない。 ・現状がいったいいっぱいなので、将来古くなった機械を変える余裕がない ・規模拡大の限界 ・現在、仕事・経営を、後継者に引き継いでもらおうとしている所だが、茶価の安値安定により、このまま経営ができるかどうか、又茶工場が個人としてやれていくのか非常に不安に思う。 ・売上がジリジリと下降線をたどる一方、生き残るためには経費は抑えにくく、いわゆる“ジリ貧”状態。今後が心配。
有害鳥獣	3	※勝間田地区 2件、大江地区 1件 ・イノシシの被害が大きく、傾斜地は無理になってきた。 ・イノシシ等の畑の被害
その他		・他市では茶業へのかかわりが数多く新聞、テレビで報告されています。牧之原市はイベント以外お茶への取り組み指導等が有りません。 ・季候異常、地震影響等 ・農家が減少している中で、畑織や防霜ファンの組合の方向性。 ・水(第2ステージまではほしい)

(コメントは抜粋です。詳細は、28ページ以降のコメント一覧をご覧ください。)

【Q2】市の支援として希望することがあるか？

ある	65
ない	10



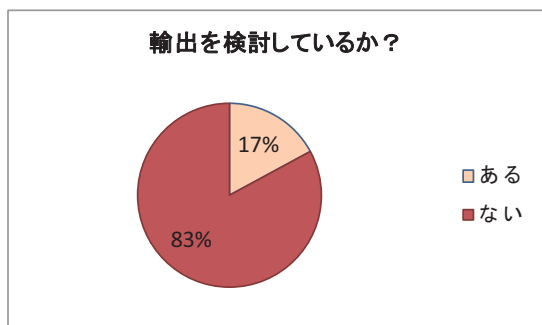
《具体的には…》※件数は内容を見て振り分け(複数にまたがる内容はそれぞれカウント)/コメントは抜粋

茶園集積	10	・茶園の集積（基盤整備）の推進、登記等の代行（事務作業の簡略化） ・借地茶園の集積化 ・放棄茶園の貸し出し手配、認定農家以外にも親切な手配・案内
基盤整備	7	・基盤整備の無料化推進 ・耕作放棄地を含む基盤整備への補助
補助金の拡充	34	・支援の多様化（乗用のアタッチメントなどにも単体で使用可など）、市として国へ国庫事業の条件の見直しなどを働きかけてもらいたい。 ・枕地の整備等への補助金、抜根茶樹の廃棄場所（無料で） ・大規模経営又は規模拡大農家のみ応援しているが牧之原市は2ha位の自園農家が多くいる。その人たちを応援しないと放棄茶園はどんどん増える。もう遅いと思うけど。 ・農地の拡大も限界近くまできている。さらに進めるには大型機械化が雇用実施になるかと思う。その資金の援助をお願いしたい。 ・おいしい茶を作る為に肥料助成金¥20,000/反 欲しいです。 ・補助事業の円満な手配 ・農業全般の補助金制度をわかりやすく皆に知らせてほしい。手紙だけでは、見ない方がいる。 ・隣接荒廃茶園の整備への補助、現在の補助より簡単に受けやすく
PR事業	13	・市をあげてお茶の宣伝をする ・販売の助言 ・売り場を見つけてほしい ・牧之原市のお茶は牧之原市で守ってもらいたい。我々生産者が販売まで手が出せない。
後継者・人材確保	9	・シルバーを中心とした、人材確保 ・後継者が増えるように、他産業からの農業就業支援、畑の貸借の支援 ・農業手伝い雇用のリストや茶師派遣の援助 ・一時雇用のあっせん
有害鳥獣	2	※勝間田 2件（Q1でイノシシと書いた方とは別） ・やめていった畑や、田の草刈り等の管理をしてもらいたい！イノシシがくる為 ・イノシシの対策
その他		・ドローンを使用してのナガチャコガネ被害場所の動画撮影(5月)をして11～12月にその場所のみを防除する。環境にやさしい防除方法だと思います。 ・市ではこの先牧之原茶をどのようにしていくつもりですか ・5、10年後に残った茶業者を守るための支援。農業生産法人の優遇。 ・転作を推進すべき ・今まで生産者が希望してきたこと。畑織の統合。 ・農道の補修、上の土地から出る水、修理をお願いしても、修繕してもらえない為、壊れたまま使用していかなければならない（河川にかかる橋、堤防、農道）台風、大水、数年前の地震 ・資材の高騰 ・荒れてる畑が誰のか教えて

(コメントは抜粋です。詳細は、28ページ以降のコメント一覧をご覧ください。)

【Q3】輸出を検討しているか？

ある	13
ない	63



《輸出関係の記述》

- ・輸出対応の防除計画、契約栽培の実施
- ・輸出、出来るならやりたい。慣行でも。
- ・緑茶を愛飲している民族が東南中東のアジア諸国にあるのでは？そちらの方面への進出を。
- ・（希望あると回答したが）ですがハードルがなかなか高い！

【その他記述欄】

- ・お茶が安いからといって面積を広くすれば経費がかかるし、身体がつかれる。良いものができなくなり、安くなる。面積をあまり広げなくて、良い物をつくって高く売るのがよい。
- ・自己改革して行きます。応援よろしく！！
- ・一部の大きな農家だけでなく、頑張っている農家にも支援を望みます。公平な情報を宜しく願います。
- ・私も高齢になりましたのでもう少しでやめます
- ・耕作放棄が増え、栽培がやりにくい（病害虫・草etc.）。山林等手入れがなされなく、枝が畑におおいかぶさったり、葉が落ちて摘採が困難。
- ・私達もがんばるので、御指導、お願いします。
- ・市単独で取組み、支援している事は何ですか？お茶が始まってすぐに市、農協の職員が廻ってくるが、事故防止等注意事項 を言う訳でもない、必要ない。生産者は摘採、製造に集中している。アンケートの集計とそれに対するの対応策等のまとめの対応を配布してください。
- ・中古ハウスの情報があれば教えてください（複合経営検討）
- ・あと10年程で、茶生産をやめるつもりなので、ムダな投資はしない。
- ・逆に市の意見を聞かせてください。
- ・生産、加工で手がいっぱいです。販売までも我々の分野でしょうか？
- ・PR活動について、市外の間屋と専属取引しているため、牧之原市としての活動（PR活動など）が直接的には結び付きにくく、ジレンマを感じることがある。
- ・牧之原茶を全国へアピールしてください。
- ・がんばりますのでがんばりましょう
- ・なるべく茶業を続けられるよう補助をお願いします。
- ・農業政策にもっと力を入れてもらいたい
- ・昔と比べ、茶を飲む人が減り、めんどくさいが先となっている現代、ペットボトル等が手軽であたり前になっているが、そのボトル等をつくってきた企業が、今の茶業界を動かしているのが今の現状。あの人達は、お茶は自分達の商売の道具だとは思っていないでしょう。「お茶農家つぶし」言い方悪いですが。お茶は文化とか産業とかなんて1つも思っていないでしょう。ここら辺を変えない限り、茶業はつぶれます。

コメント一覧

【Q1】茶業について、不安に思うことがあるか？

- ・ 経営者の高齢化、後継者不足、茶園の荒廃
- ・ 未来はない
- ・ 単価、収量など今年は特にヒドい。特に収量。継続がムズかしくなってくる。
- ・ 収益性
- ・ お茶を呑む人が少なくなった。若者に魅力がない。安くなった。経費がかかる。
- ・ 人材不足
- ・ 後継者、畑の維持、生葉の確保
- ・ 茶園の減少、荒茶価格の低迷
- ・ 茶業、茶価の低迷している中、今後の茶業を一本で生計を成り立たせて行けるのか、少し心配です。せっかく後継者があるので、この先を意欲を持って茶業に取り組めて行けたらなあと思います。
- ・ お茶が売るに安くて、買うに高いです。わたくし達が製造して売るに1kいくら、買うに100gですよ。
- ・ 耕作放棄地の拡張、高級茶の消費減退、イノシシ等の畑の被害
- ・ 茶価の低迷
- ・ 茶価の下落
- ・ 茶価の低さ！小規模農業を見捨てるような行政！
- ・ 収入減、経費増
- ・ 自園自製自販でやって来ましたが、高齢のため製造をやめました。生葉売りでは、やっていけそうもない。お客さんのお茶離れが多くなってきた。どうしたらお茶で生活出来るか？心配です。
- ・ 茶価が不安定なところ、茶農家の後継者がいない点、緑茶の消費減少
- ・ 今後、茶業で生き残っていくには、低コスト化を目指した経営規模の拡大しかないと考えているが、その為の資金的余裕が、現状ではない。
- ・ 現状がいっぱいいっぱいなので、将来古くなった機械を変える余裕がない
- ・ 茶業での生活が苦しい
- ・ 他市では茶業へのかかわりが数多く新聞、テレビで報告されています。牧之原市はイベント以外お茶への取り組み指導等が有りません。
- ・ 後継者がいないため、葉売農家になった場合、採算があるか不安
- ・ 放棄茶園の増加
- ・ 担い手不足（高齢化）、規模拡大の限界
- ・ 価、働き手、大型機の入替え費用、季候異常、地震影響等
- ・ 茶価及び労働力
- ・ 茶業が低価格でしばらく続いている。大手メーカーの動きをみると、この状況からの脱出は大変で固定価格化されそう。
- ・ 価格
- ・ 年々茶の出荷額が減って来て、生活が苦しくなっている。特に一番茶の価格が安く不安に思う。
- ・ 反収確保
- ・ 単価安い
- ・ 労働力の確保、設備投資負担、複合経営の検討
- ・ あと何年やれるか（先行）
- ・ 価格低迷で生活が不安
- ・ この先、生活が出来て行けるのか不安です。農業従事者の減少。
- ・ 農家が減少している中で、畑総や防霜ファンの組合の方向性。
- ・ 相場の展回
- ・ 畑の数が減って、お茶が集まらない。高齢化。畑が分散しすぎていて、乗用が入れなかったり手間が余計にかかる。茶価が安い。
- ・ 茶業がこの状態から脱する事ができるのか？未来があるのか？
- ・ 高齢化による、傾斜地の耕作放棄地
- ・ 耕作放棄地の増加
- ・ 現在、仕事・経営を、後継者に引き継いでもらおうとしている所だが、茶価の安値安定により、このまま経営ができるかどうか、又茶工場が個人としてやれていくのか非常に不安に思う。
- ・ 茶価の不安（どこまで値が下がるのか）
- ・ 茶価の低迷により生活がなりたない。
- ・ 売上がジリジリと下降線をたどる一方、生き残るためには経費は抑えにくく、いわゆる“ジリ貧”状態。今後が心配。
- ・ 価格低迷と人手不足
- ・ 茶価の低迷による、先行き不安
- ・ 高齢のためあと何年製茶業が出来るか、生葉売りでは生活出来ない事
- ・ 小学生、中学生の給食制度を検討すれば、子供の時からお茶を飲む習慣がつくのではないか。
- ・ 茶業収入が少なく、後継者不足
- ・ 労働力、販売

- お茶を飲む人口の減少、問屋販売での茶価の低迷
- 資材の高騰、畑の集積
- 資材があがっている、人手が不足している、お金がない（機械を更新したいが）、畑がバラバラ、水（第2ステージまではほしい）、イノシシが邪魔、売れるのか不安
- 将来、自分の跡継ぎとなる時代に、茶業がどうなっているか
- 茶業情勢、これからの労力確保
- 茶園の貸し出し
- 茶価の低下、農家の高齢化、茶園の集積、労働力不足
- 後継者が入れない状況が続いている（茶価等）、特に生業農家
- 単価が低い、生産量の低下
- 茶の価格の低迷、消費拡大、市もっとやってもらいたい
- 茶価の低迷
- 後継者不足、茶価の安値、肥料・農薬・機械代が高い、茶の消費低迷
- 茶の収益の減少により、後継者の育成が出来ず、高齢化が進み、産地として心配している。（茶工場としても、個人としても）
- 荒茶価格の安値安定が続き、生産過剰の状況では、茶農家の減少はまだ続くと思われる。
- 荒茶販売価格が低迷しすぎて、工場に設備投資ができない状況になっている。
- 長引く茶価の低迷による茶業の廃業とそれによる農地の荒廃と農家の意識の低迷
- 今年の茶価の動向
- 茶価低迷の折、規模拡大し機械化したいけれどもなかなかついていけない。イノシシの被害が大きく、傾斜地は無理になってきた。
- 経費は年々上がっていくが、収入は減少している現状。特にお茶については、ここ数年きつい減収となっている。
- 茶価が低迷し、茶を栽培する農家が年々減ってきていること

【Q2】市の支援として希望することがあるか？

- 茶園の集積（基盤整備）の推進、登記等の代行（事務作業の簡略化
- 支援の多様化（乗用のアタッチメントなどにも単体で使用可など）、市として国へ国庫事業の条件の見直しなどを働きかけてもらいたい。
- 農機購入の補助
- 市をあげてお茶の宣伝をする
- ドローンを使用してのナガチャコガネ被害場所の動画撮影(5月)をして11～12月にその場所のみを防除する。環境にやさしい防除方法だと思います。
- シルバーを中心とした、人材確保
- 畑を面的集約の手伝い、機械購入の補助
- 借地茶園の集積化、枕地の整備等への補助金、抜根茶樹の廃棄場所（無料）
- 放棄茶園の貸し出し手配、認定農家以外にも親切な手配・案内
- 市ではこの先牧之原茶をどのようにしていくつもりですか
- 後継者が増えるように、他産業からの農業就業支援、畑の貸借の支援
- 個人にも補助制度を
- 基盤整備の無料化推進
- やめていった畑や、田の草刈り等の管理をしてもらいたい！イノシシがくる為
- 販売の助言
- 補助金、助成金
- 新規事業や、新機種導入の際の、障壁・制限の少ない補助制度。
- 具体的にわからない
- 大規模経営又は規模拡大農家のみ応援しているが牧之原市は2ha位の自園農家が多い。その人たちを応援しないと放棄茶園はどんどん増える。もう遅いと思うけど。
- 5、10年後に残った茶業者を守るための支援。農業生産法人の優遇。
- 茶畑の再配分と農地集積
- 農業機械全般の補助、大型機だけでなく10万前後からのものにも。農業手伝い雇用のリストや茶師派遣の援助
- 畑の集積及びその支援
- 農地の拡大も限界近くまできている。さらに進めるには大型機械化が雇用実施になるかと思う。その資金の援助をお願いしたい。
- 大きな工場などは補助があるが小さな工場にはあまりない。旧相良地区には個人の工場もあるので考えてほしい。
- 特定認定農家などには色々な面で補助金等を受けているが、我々一般の小規模農家はそういった事はありません。茶農家一律に肥料農薬等の補助が受けられるような制度を作してほしい。
- 転作を推進すべき
- 補助金の充実、小規模農家の支援（補助金等）、販路（物販、イベント等）の情報提供

- ・無駄な補助金をやめてほしい
- ・支援は希望しますが、具体的にというと？肥料等の1回施肥分を配布してくださるとか。
- ・おいしい茶を作る為に肥料助成金¥20,000／反 欲しいです。
- ・今まで生産者が希望してきたこと。畑総の統合。
- ・売り場を見つけてほしい
- ・茶園の集約
- ・個人にも法人並みの支援をして頂きたい
- ・農業機械等購入の助成金の支援
- ・耕作放棄地を含む基盤整備への補助
- ・販売・茶畑の集約化、茶産地 『牧之原』のPR
- ・牧之原茶のアピール
- ・牧之原市のお茶は牧之原市で守ってもらいたい。我々生産者が販売まで手が出せない。
- ・小規模経営でも受けられる資金援助があればうれしいかも…？PR活動
- ・一時雇用のあっせん、補助事業の円満な手配
- ・単年度の補助金ではなく、補助率が少なくても長期に渡り補助金ができるものがほしい。
- ・農道の補修、上の土地から出る水、修理をお願いしても、修繕してもらえない為、壊れたままで使用していかなければならない（河川にかかる橋、堤防、農道）台風、大水、数年前の地震
- ・土地の有効利用（耕造改善）
- ・雇用確保のお手伝い
- ・緑茶を飲む人口を増加させていくためのPR・またはイベント
- ・農業全般の補助金制度をわかりやすく皆に知らせてほしい。手紙だけでは、見ない方がいる。
- ・畑の集積、畑の貸し借りの手助け、荒れてる畑が誰のか教えて
- ・助成
- ・茶業全般に（個人、協同共）手厚い補助金を。販売活動にも協力お願いしたい！
- ・いろいろ
- ・乗用の補助金、工場の機械
- ・機械化への補助、後継者への支援
- ・基盤整備の推進
- ・農地の区画整備、イノシシの対策
- ・中古の製茶機械でも補助金が出るようにしてもらいたい
- ・Q1の問題解決
- ・生産から販売に力を貸してほしい！（牧之原茶としてのピーアール）
- ・生業農家が減少し、その分自園茶園が増加している。生産性の良い茶園にする為、枕地作り、畝かえ（南榛原開発等に委託した場合）等にかかる費用補助が簡単にしてもらえれば良い
- ・市というより県・国にリーフのPR、宣伝を牧之原茶ではなく日本全国のリーフ茶のPR（メディアを使った）を働きかけてもらいたい！とにかく急須で入れる茶が売れないと成り立たない！
- ・隣接荒廃茶園の整備への補助、現在の補助より簡単に受けやすく
- ・自園にも、補助金を増やして欲しい
- ・現在の支援（キカイ、資材、人材など）をして頂いている事は、大変ありがたいと思う。この支援の厚みですかね。規模が小さくても法人化できるしくみなど、それについての勉強会。
- ・茶農家に対する何らかの支援や、希望が持てる様な政策があれば、実行してほしい。具体的に何が良いのかわからないですが、このままではジリ貧になってしまう。